

園名（ 西脇こども園 ）

【各園の特色や今年度、園として頑張りたいところ】

- 行事の中で、子ども主体で保育を進めている。
- 今現在、5歳児は今週末のデイキャンプに向けて意欲的に取り組んでいる。
- それぞれの保育者において「保育環境の悩み」や「援助の仕方の悩み」等がある。
- 外国籍の子どもや、支援の必要な子どもたちも多く、クラス運営に悩みながら進めているところである。

	担当委員より
<p>教育 ・ 保育内容</p>	<p>通常の保育のみならず、地域に根ざした園として、幅広い子育て支援を実施されている。また、積極的に保育の質の向上を目指そうとされており、園全体でより良い保育を行おうという意識の高まりがみられる。</p> <p>乳児クラスについては、以前より課題となっている広い保育室をどのように使うかについて、さまざまな工夫を行なっている。高低差をつけることによって、子どもたちが動きたいと思う欲求に応え、多様な運動を経験できるようにしたり、対照的に子どもたちがじっくりと落ち着く場所を設置しようと試みられたりしている。また、少人数で活動することで保育の流れがスムーズに運ぶようになってきている。空間の仕切りやグループごとの活動の流れには、まだ工夫の余地があるが、1回目と2回目の訪問を機に、少しずつ改善が見られている。保育者同士の連携もとれるようになってきており、それぞれの良さを生かしながら保育が進められている。</p> <p>幼児クラスについては、3歳児の保育室において、ままごとなどのコーナーが充実し、生活の中での遊びが定着している。一人一人の個性に応じて、保育者が活動を考えており、子どもたちが満足して遊びを進められるように努力されている。4歳児の活動では、グループでの制作を実施するなど、子どもたち同士の関わりを重視しつつ、素材に触れたりスキルを身に付けたりすることが盛んに行われている。そのため、幼児同士のコミュニケーションが活発に行われ、言葉の力や関係性を築く能力などが育まれている。5歳児になると、自分たちで調べてみたり、意見を交わす場が保障されており、自ら考えて行動する場面が多く取り入れられている。主体的・対話的な能力を伸ばすように工夫されていることが分か</p>

	<p>る。</p> <p>全体として、保育の質の向上に向けて保育者が努力しているといえる。子どもの育ちを優先に、縦のつながりを考えながら保育がなされていることが、今年度も感じられた。今後とも、子どもたちに寄り添いながら、楽しく保育を進めていっていただきたい。</p>
教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> ・理念に基づき教育・保育をされている。 ・継続されたら良い。
安全管理 ・ 防災教育	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月様々な想定避難訓練をされているが、年に1回不審者想定避難訓練を警察と連携してされていることは良い。継続していただきたい。 ・園に入り口が多いため、確認しにくい場所の把握をし工夫しながら実施されたら良い。
家庭 ・ 地域との連携	<p>ドキュメンテーションに力を入れられているので、それを地域の方や外部から来られた方も見ることができるよう工夫されたら良い。親子教室等も開催していただいております。地域としても有り難い。情報公開して理解していただければ良い。</p>
職員の 資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が多いため、メールやLINE等を活用されて、情報を共有されていることは良い。 ・行事ごとに正規職員が集まり話し合い、そのことを他の職員に周知されていることも継続してほしい。そこで行事のねらいを職員で共有できていくと良い。
食育 ・ アレルギー対応	<ul style="list-style-type: none"> ・十分されている。 ・継続していただきたい。
関係者評価の 取組	<ul style="list-style-type: none"> ・市内全体でアンケートをとられている。 ・保護者等からの意見を受け、園内で検討しながら、次年度へとつなげていっていただきたい。

園名（ 比延こども園 ）

【各園の特色や今年度、園として頑張りたいところ】

- リズム体操を全学年で行っている。リズム体操のパンフレットも手作りしている。
- 行事等は、その日のうちに写真入りの通信を発行している。（主幹作成）
- 自然、地域を大切にしたい。
- いろいろな人や季節のものに関わり、触れ合う中で学ぶことも多いと考える。
- 十分遊びきってほしいと考えている。
- 泥んこ遊び（田植え前の田んぼで遊ぶ経験）や、ツマグロヒョウモン、メダカ、金魚等（地域からいただいたものもある）の飼育を通して日頃から自然や地域とつながっている。

	担当委員より
<p style="text-align: center;">教育 ・ 保育内容</p>	<p>保育の内容や子どもたちの様子について、大がかりなドキュメンテーションを作成し、それを活用しながら保護者や地域に伝えている点から、昨年に引き続き、日々努力を重ねていることがうかがえる。</p> <p>職員同士の協力体制はもちろんのこと、保護者や地域との連携も密に図られており、子どもたちの育ちを一丸となって支えている様子は本園の強みである。</p> <p>0～2歳児では、自由に遊ぶことができる環境の中で子どもたちの微細運動の発達に着目し、手作り玩具等を用いて、遊びを通して育ちを促すことをねらいとした保育が実施されている。体力づくりの取組についても、保育者が課題意識をもって遊びを考えようとしている様子が見られる。</p> <p>3～5歳児では、子どもとの関わりはもちろんのこと保育環境の細部にまで行き届いた、きめ細やかな配慮がなされている。子どもが遊びを通して学ぶことを大切にし、保育者が一方的にねらいを立てて進める保育ではなく、ねらいを子どもに伝えながら共に進めていく、双方向の保育が実践されているクラスもあった。その保育は単に子どもに考えさせるだけでなく、子どもから出てくる発言までも見通した保育者の明確なねらいが感じられそこに保育への深い思いと広がりを感じ取ることができる。</p> <p>今後は、これまで以上に園全体で一人一人の子どもの0～5歳までの育ちを見通し、保育者それぞれの強みを生かした保育にとどまらず、年度ごとに異なる子どもた</p>

	<p>ちの姿を踏まえ、その年の子どもに必要な遊びを考え、遊びにより一層の深まりが生まれるよう、引き続き努力していただきたい。</p>
<p>教育課程の編成</p>	<p>造形活動や体験活動など、ダイナミックな制作の様子をドキュメンテーションを通して知ることができる。先生方は、子どもたちが「やってみよう」と思ったことに挑戦できるよう、様々な工夫をされている。このまま継続していただきたい。</p>
<p>安全管理 ・ 防災教育</p>	<p>毎月の安全点検、避難訓練が適切に実施されている。引き続き子どもたちが安全に過ごせる場所を維持していただきたい。</p>
<p>家庭 ・ 地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ドキュメンテーションや掲示物は、保護者や地域への発信として大切にされている。 ・子どもが健やかに育つよう、保護者と保育者が日々の生活の様子を伝え合い、行事等については、通信等を通して発信することで、保護者の安心につながっている。 ・さまざまな発信により、保護者が保育に関心を持つことができ、保護者と相互に子どもの様子について話し合える関係性が築かれている。
<p>職員の 資質の向上</p>	<p>研修計画表が作成されていることは、特筆すべき点である。多くの研修に参加することで、子どもの保育に関わる人員配置等の面で大変なこともあると思われるが、研修の機会を適切に捉えて参加している点は、今後も継続していただきたい。</p>
<p>食育 ・ アレルギー対応</p>	<p>子どもに関わる園全体の職員同士の連携を図り、食の安全に関する取組もなされている。引き続き継続していただきたい。</p>
<p>関係者評価の 取組</p>	<p>すべての意見に目を通し、それぞれの意見を受け止めた上で、実現可能な要望については改善に向けた取組がなされている。また、様々な意見に対しても、可能な限り改善を図ろうとする姿勢が見られる。引き続き継続していただきたい。</p>

園名（ どれみこども園 ）

【各園の特色や今年度、園として頑張りたいところ】

- ここ数年は環境について研修をしている。
- どのクラスもドキュメンテーションを作り、自分の保育の振り返りを行っている。
- 5つの保育目標については、教え込むのではなく、保育の中で自然と子どもの姿に近づくようにしている。
- 1年の見通しはもっているが、委員の先生方の助言を基に、子どもの活動を見ながら方向付けをしていきたい。

	担当委員より
<p style="text-align: center;">教育 ・ 保育内容</p>	<p>園全体で環境の見直しや保育の在り方の検討、ドキュメンテーションの作成や活用など、保育の充実に向けた姿勢が見られ、意欲的に取り組もうとされている。また1回目の視察訪問での助言を踏まえて、保育者が自分の関わりや遊びの環境を工夫し、遊びを通しての個々の子どもの興味や育ちを日々捉えながら保育を行っている。</p> <p>乳児クラスの保育室では、自由な遊びの時間帯に選択できる環境を用意され、子どもの興味に応じて遊べるようにされている。1回目の助言を受けて、保育室の空間の使い方なども工夫されている。</p> <p>3歳児は、段ボールで作った家やままごと、机上遊びなどの保育環境を工夫しながら、自由遊びの時間帯をゆったりと遊べるようにされている。4歳児は1回目の「ゴロゴロコーナー（ゆっくりするコーナー）」をつくと良いという助言を踏まえて取り組まれており、秋ならではの意図的な制作活動なども充実している。5歳児保育室では、これまでの取組が分かる掲示物や今の時期に必要な遊びの中での育ちを支える環境づくりに工夫が見られる。幼児クラスでは園庭での外遊びの時間も充実しており、子どもたちの存分に遊びたい気持ちを大切にしている。</p> <p>昨年度に引き続き、意識的に取り組んでいるドキュメンテーションを使った保育の振り返りや、保育環境づくりの研修をされている。今後もそれらの取組の継続を通して、保育内容や環境構成を工夫し、考え続けていくことを期待したい。また、0歳児と1歳児が共に過ごす中で、生活や遊びの流れ、保育環境の工夫などを更に検討していくことを通して、さらなる乳児期の保育の充実を図っていかれることを期待する。</p>

<p>教育課程の編成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市内統一のカリキュラムを基に月間カリキュラムを作成されていることは良い。 ・今後、月間のカリキュラムがブラッシュアップしているかどうかを確認していかれたら良い。 ・カリキュラムのベースとなる部分は大きくは変わらないが、園としての標準的な保育を職員全体で共通理解できれば良い。
<p>安全管理 ・ 防災教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルは作成して終わりではなく、実効性のある物であることが大切。 ・無線機を導入されたことは、連携の取りやすさ、スムーズさにつながっていく。 ・マニュアルを作成される際、QRコードを埋め込まれてはどうか。避難経路等、動画で見ることができるようになることで、言葉（文言）だけではないため、分かりやすくなると思う。 ・改善しようとして努力されていることが良い。
<p>家庭 ・ 地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総会や講演会等、来年度はされたらどうか。 ・「参観ウィーク」を作り、保護者に来てもらえるようにしてみても。年に1回「1日先生になりませんか？」という日を設けてみる。「園の保育をつくっていく仲間になってくれないか」というスタンスで依頼してみてもどうか。 ・2017年の指導要領の改訂の中で「地域や社会に開かれた教育課程」が記載されている。保護者がサービスを受ける側、園がサービスを提供する側という意識になりつつあるが、そうではなく、「一緒に子育てしましょう」という意識につながると良い。
<p>職員の 資質の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・配信のあるリモート研修を受けることで、職員が共通のイメージをもつことができている。 ・研修報告も良いが、研修を受けられた先生に講師になってもらい15分程度研修を行ってもらうことも良い。 ・保育日誌は書いて終わりになってはいけない。KPT法を取り入れ、保育を客観的に見つめ直し、良かった点を継続し、課題を解決するための具体的な行動につなげていくと良い。
<p>食育 ・ アレルギー対応</p>	<p>アレルギー疾患のある幼児に対して、トレーの色を変えたり、ラップに名前を明記したりされている。取組の状況に書かれたらよいし、継続していただきたい。</p>
<p>関係者評価の 取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・取組の状況は良い。 ・保護者アンケートはいかに回収率を上げるかが課題。市全体として考えていけないといけない。「何のためにアンケートをとるのか」「それをどう生かしていくのか」ということを、保護者に理解してもらわないといけない。何度もアナウンスし、協力してもらうことが大切。

園名（ 日野こども園 ）

【各園の特色や今年度、園として頑張りたいところ】

－本年度の取組 重点－

○園児像

- ・いきいきした元気な子
- ・友だちとなかよく遊び、がんばる子
- ・興味や関心を大切にし、感性豊かに表現できる子

○職員像

- ・大切にしている視点は、真心をこめて教育保育をすること。

○0～5歳児で140名になった。有難いことに前年度と比べ、園児数が10名ほど増えている。

○どのクラスも、複数担当を付けて互いに連携し話をしながら、保育できるようにしている。5歳児クラスは32名園児が在籍しているが、連携をとり頑張ってくれている。

	担当委員より
<p>教育 ・ 保育内容</p>	<p>今年度は、公開保育を実施されたこともあり、園全体でより良い保育を行おうとする気概が感じられた。子どもの楽しさや主体性の発揮、興味関心をもとにした保育の展開などが行われ、年間を通して質の高まりを見ることができた。</p> <p>乳児クラスでは、1回目から2回目の訪問にかけて、0歳や1歳の環境を整えるところで様々な工夫がなされてきた。また、若手の育成にも力を入れられており、若い保育者が自信をもてるようになるまで、丁寧に周囲の支えがあったのが印象的である。また、2歳児のクラスでは、子どもたちの関わりが深くなるように、活動や保育者の関わりがなされており、発達に応じた教材を提供しながら、子どもたちが意欲をもって取り組んでいる姿がみられた。</p> <p>幼児クラスでは、3歳児で遊びたくなるような環境や玩具が用意され、大人でもワクワクするような遊びが展開されていた。素材の細かい工夫や、子どもと保育者が手作りでいろいろな玩具を作り上げ、ごっこ遊びに熱中している姿がみられた。4歳児では、それぞれのクラスで探究的な活動が行われており、将来、小中学校での学習活動につながるような内容と深まりを見せていた。それも、子どもたちの興味関心や育ちに応じた形で行われており、自然な流れで実践されていたといえる。また、5歳児では、小学校と連携をとりつつ、子どもたちの発想を大切にしながら、自ら工夫してテーマパークごっこが進められていた。全体</p>

	<p>での話し合いやグループでの話し合いを重視し、子どもたち主体で活動全体が行われており、質の高さが感じられた。</p> <p>この1年で子ども主体の保育が劇的に高まってきたことが実感できた。それには、保育者間のチームワークや、優れたリーダーシップがあつてからこそ実現したものと考えられる。課題としては、この質の高まりを維持することであるといえるが、人材不足がいわれる中、新たな保育者の就職希望があるとのことで、園としての魅力が増してきていると思われる。今後のさらなる質の向上に期待したい。</p>
教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> ・「決まっている」からやるのではなく、子どもたちがやりたいことから保育が展開されており、子ども主体の保育がなされている。 ・子ども主体の保育をされていることにより、子どもたちの思考力の育ちへとつながっている。
安全管理 ・ 防災教育	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1～2回、地震・火災・不審者対応・水害などの避難訓練を定期的にされていて良い。継続していただきたい。
家庭 ・ 地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・保育業務支援システムを導入されたので、保護者と連携を取りやすくなると思う。 ・保護者が安心して子育てできるかどうか大切。情報がタイムリーに入ってくるかが重要になってくる。
職員の 資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・公開保育で先生方はよく頑張っておられる。 ・園小連携でされていて、とても良い。公開保育は園として示唆の多いものになると思う。
食育 ・ アレルギー対応	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー対応・食育ともに十分されている。 ・クッキングもされており、充実している。
関係者評価の 取組	<ul style="list-style-type: none"> ・市で保護者アンケートをとられているので継続していただきたい。 ・保護者アンケートの意見をうまく反映できるよう、工夫されると良い。 ・保護者に子どもの声を真摯に聞いていることや公開保育の感想なども伝えると保護者の安心感にもつながるので、アピールすべきだと思う。

園名（ かすがこども園 ）

【各園の特色や今年度、園として頑張りたいところ】

- 今年度の取組（園内研修）のテーマは「体を動かして遊ぼう！」
職員からの意見、要望より取り組んでいる。
- 年々、加配の必要な子が増えてきている。
- 現場に任せている部分は多々ある。
- 支援室での個別対応もしている。「インクルーシブ」であり「一緒に」は大切だが、「個々に応じて」も必要だと感じる。

	担当委員より
<p>教育 ・ 保育内容</p>	<p>園全体で良い保育のために共に考えていこうとする職員集団が育っていると感じられる。どの学年も子どもの主体的な遊びを大事にした保育が行われている。</p> <p>0, 1歳児では、保育室をいくつか仕切りながらも行き来ができるようにするなどの工夫によって、それぞれのコーナーが充実している。0歳児においても「体を動かして遊ぼう！」というテーマを生かして保育を行っている。1歳児では机上遊びや手先・指先を使った遊びなど集中して遊ぶことができるように工夫がなされている。2歳児のクラスは、遊びスペースの確保のために、保育室全体をうまく活用しながら環境を整えている。1回目の視察訪問時の「同じ物を複数用意して一緒に楽しめるようにすると良い」という助言を受けて、2回目訪問時には物を複数用意される中で子どもたちが平行遊びを楽しめるように工夫されている。</p> <p>3歳児でも「体を動かして遊ぼう！」というテーマを生かして牛乳パックとプールのスティックを組み合わせた物で、一人一人が室内でも体を動かして遊びを楽しめるような保育内容や環境を工夫されている。イメージする力が豊かに発達していく姿に合わせてごっこ遊びも展開されていた。4歳児も、ピクニックごっこなどの遊びやそれに関わる制作活動に取り組む中で、イメージしたり工夫をしたりしながら遊ぶことができるような言葉がけもされていた。5歳児では10の姿の「言葉による伝え合い」や「豊かな感性と表現」を意識してお話遊びが展開されており、年長児らしい想像力や創造力を発揮できるような保育内容や保育環境の工夫がなされている。園の保育の特色としてお話遊びが定着していくと良い。</p> <p>毎年、1回目の訪問での助言を踏まえてどのクラスで</p>

	<p>も環境の工夫を行い、子どもの思いが実現できるように保育を構想し、園全体として保育の質を向上させたいという意欲が見られる。加配の必要な子どもを含めてインクルーシブ保育の考え方を意識し、引き続き、保育の質を高めていくよう、尽力していかれることを期待する。</p>
教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> ・西脇市の就学前教育・保育カリキュラムを基に教育・保育をされていて良い。 ・実践が力となっており、趣旨や考えが先生方に浸透している。
安全管理 ・ 防災教育	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練時、子どもたちの出欠を把握しておくことは当たり前だが、そこができていない園もある。しっかりされていることが大事。 ・防災・安全教育では、「自分たちで自分たちの身を守る」という点を年長になった時、考えられると良い。年長児が紙芝居等作り、それを4歳児に説明する・伝えるということができてくると、自身の防災意識が高まっていく。長期的に見て、計画されたら良い。
家庭 ・ 地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・園の保護者にまずは知ってもらうことが大切。その後今年度から始められているように、地域の方に回覧等で情報発信されているということはとても良い取組。 ・園の保育を負担感がない程度に、インスタグラムで発信されることも良いのではないか。ドキュメンテーションを発信されても良い。
職員の 資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・研修をしっかりとされている。 ・園内研修の中で、「ミニ公開保育」をされることはとても良い。力になる。他のクラスを「見せてもらって考える」ということはとても刺激になる。「10分だけ見せてもらう」というくらいでも良い。 ・今年度の園内研修のテーマが「運動遊び」であるからこそ、どのクラスの自己評価にも運動面のことが記載されていた。職員が「やっていることの意義」を理解して取り組まれているのだと感じた。
食育 ・ アレルギー対応	<p>トレーや食器の色も個人によって変えられていることはとても良い。当たり前に行われていることも、取組の状況に記載されたらよい。</p>
関係者評価の 取組	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の意見をしっかりと把握されているところが良い。 ・肯定的な意見の中に、少し角度の違う意見があるとするならば、それが誤解なのか、伝わっていないのか、考え直さないといけないことなのかを立ち止まって考える機会となると思う。

園名（ つまこども園 ）

【各園の特色や今年度、園として頑張りたいところ】

- 今年度のテーマ【基礎が身につく こども園】
- 小学校への基礎として「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に基づいた力をつけていきたい。
- 発達に応じた運動遊びにも力を入れていきたい。
- 絵本の読み聞かせによって心を育てたい。
- 園児一人一人の個性や表現を大切に、実態に応じた対応・保育を目指す。
- 「信頼」を作ることは難しいが、小さいことの積み重ねを大事にし、「信頼感のある」園にしたい。
- 6月より連絡アプリを試験導入する。
- 食物アレルギーがある子どもたちも一緒に食べられるメニューを年3回実施している。
- 園環境の整備もR4から計画的に進行しているが、最終段階。R8には完了予定。

	担当委員より
<p>教育 ・ 保育内容</p>	<p>園全体でドキュメンテーションが充実しており、保育の経過や10の姿での子どもの育ちを捉える力の向上が感じられる。また、子どもの発達や興味に応じた環境や、遊びや活動を進めていくための環境を工夫されている。</p> <p>0, 1歳児の保育室では、手先・指先を使って遊べるような環境、感触遊びに関わる環境などを工夫し、2回目の視察訪問時にはままごと遊びの環境の工夫があり、子どもの育ちに応じて環境を見直している。2歳児では、1回目の訪問時の「ままごとコーナーを真ん中に持ってきて2箇所にしてみると良い」という助言を受けて、ままごと遊びの環境の充実を図ってみたい、新たにボーリング遊びの環境を用意したりと工夫が感じられる。</p> <p>3歳児では、1回目訪問時の「イメージが湧きやすい物を用意すると良い」という助言を受けて、保育環境を工夫されている。2回目訪問時にはお店屋さん（ケーキ・パフェ・ドーナツ等）や魚つり遊びなどイメージをもって遊ぶ活動が充実しており、遊びの豊かさを感じた。4歳児は子ども同士の関係性や言葉でやりとりする力を育成するための保育を工夫されている。5歳児は子どもが主体的にお化け屋敷づくりを進めるなど、保育の展開や環境が工夫されている中で、10の姿の「言葉によ</p>

	<p>る伝え合い」や「豊かな感性と表現」の育ちを意識して保育を行っている。</p> <p>今後、幼児クラスでは1年生の生活科や図工、国語、算数の教科書を見て参考にしたり、ドキュメンテーションで捉えた遊びや活動の経過を次の保育に生かしたりしていくことによって更に保育力が高まると思われる。</p>
教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のカリキュラム検討会で計画を立てられ、見直すサイクルができています。 ・保育の質を高めるための素地となるので、継続していただきたい。
安全管理 ・ 防災教育	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練では2つの軸が必要。1つ目は大人がどう動くかということ。2つ目は子ども自身が自分で気を付けて動くことができるかということ。自分でイメージして理解して行動することができるかどうかが大変重要。紙芝居を用いて話をされていることは良い。 ・今後大人になっていく過程で、自ら行動できる土台となる。
家庭 ・ 地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ドキュメンテーションをしっかりと掲示されているので、園の活動が保護者によく伝わっていると思う。 ・今掲示されているドキュメンテーションは画用紙1枚分。それを迎えに来られた保護者がどこまで読めるのか。活動の印象は分かると思うが、活動内容の分かりやすさで言うと、インスタグラムでの発信も良いかもしれない。どちらがヒットする保護者が多いかを考えられたら良い。
職員の 資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修を含め、しっかりされている。 ・保育力アップを考えた際、研修は欠かせない。継続していただきたい。
食育 ・ アレルギー対応	<p>保護者との面談、給食配膳時の対応等も含め、確実にされていて良い。継続していただきたい。</p>
関係者評価の 取組	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート等の内容を先生方で話し合ってみられると良い。 ・否定的な内容も課題として意識されたら良い。 ・連絡アプリでのアンケート回収も良いと思う。

園名（ 芳田こども園 ）

【各園の特色や今年度、園として頑張りたいところ】

- 要覧は今年新たに作成する予定。
- 教育・保育目標 『感性の芽生えを大切に、生きる力の基礎をはぐくむ』
→感性の芽生えを具現化していきたい。
- 各クラスに職員は2名以上配置している。
- 職員を5グループに分けて、各グループで行事（誕生会等）を計画し、職員会議で諮って共通理解している。大変だが大切にしている。

	担当委員より
<p style="text-align: center;">教育 ・ 保育内容</p>	<p>昨年に引き続き、園全体で保育の質の維持・向上を目指し、チームとして意欲的に保育に取り組もうとする雰囲気を感じられる。ごっこ遊びが充実する環境については、園長をはじめとして、子どもに関わる様々な大人が、子どもが主体となって活動できるよう工夫を凝らし、各クラスでそれを実現できるよう保育者がサポートしている様子うかがえた。どのクラスにおいても、子どもが主体的に遊びを進めていけるよう、発達や興味に応じた手作り玩具がふんだんに用いられていた。</p> <p>0～2歳児では、子どもの興味に応じて自由遊びの中に机上遊びや全身運動遊びなどを取り入れ、担任が一人一人の遊びに丁寧寄り添っている様子が見られた。粗大運動・微細運動の両方が可能となる、豊富な手作りおもちゃが準備されていた。食事場面においては、箸の使用への切り替え時期について悩まれている様子が見られたが、子どもの「食べたい」という意欲を大切にしている現在の取組を、しばらく継続していくことが望ましいと考えられる。</p> <p>3～5歳児では、前期よりもコーナー遊びが充実しているクラスが見られ、子どもがじっくりと遊び込むことのできる環境が整えられていた。子どもの遊びの充実に向けて工夫を凝らしながら保育が実践されている様子うかがえる。また、担任がわずかな環境の変化によって子どもの動きが変わることを実感している点も印象的であった。</p> <p>芳田フェスタにおいては、染物販売にチャレンジしたクラスもあり、子どもたちが主体的に取り組むことのできる人的・物的環境が構築されている。子どもの遊びにとことん付き合う姿勢を大切にされた保育の実践であると言える。さらに、芳田フェスタでは地域の方々との触れ</p>

	<p>合いの機会もあり、日頃から地域と密に連携しているからこそ実現できている保育であると言える。</p> <p>保育者主導ではなく、子どもの遊びの充実の様子を見ながら共に保育を作り上げていく姿勢を大切にされており、子どもたちと振り返りを行った後で片付けを進めるなど、大人の都合を優先しない保育の展開がなされている。</p> <p>今後も、染物以外にも子どもたちが主体的に取り組むことのできる遊びを共に考え、より高みを目指した保育の実現が期待される。</p>
教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育の中でも西脇市のカリキュラムを基にした保育が実践され、必要に応じて日々の指導案を作成されている。資料に基づいた保育が丁寧に取り組まれている。 ・保育に課題を認識した場合は、市のカリキュラムを参考に教育課程の編成をされるとよい。
安全管理 ・ 防災教育	<ul style="list-style-type: none"> ・室内外の点検や作業や整備など定期的に丁寧にされている。遊具の点検については、定期的な点検だけでなく戸外遊びをしながら確認されているが、一人一人の保育士が安全意識を常に持つことも継続していただきたい。 ・避難訓練も定期的に実施されている。
家庭 ・ 地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のフェスタを園で開催するなど、地域との連携が図られている。また、今年度はフェスタにおいて5歳児が染物の企画・運営を行い、染め物の販売が実施された。園内にとどまらず、家庭との密な連携や地域との協働の中で子どもを育てていこうとする意識がうかがえる。
職員の 資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育を振り返り、改善に努めている。外部研修を受講するだけでなく、園内の他クラスの保育を見て学ぶことも研修の機会となるという意識を持ち、今後さらに園内にも研鑽の機会が潜んでいることを認識しながら、さらなる資質向上を目指してほしい。
食育 ・ アレルギー対応	<ul style="list-style-type: none"> ・園内で情報を共有することの重要性を認識しているため、クラス内で対応に困っていることがあれば、園全体で相談・共有するとよい。 ・食に関する様子などを保護者と繰り返し確認しているため、このまま継続していただきたい。
関係者評価の 取組	<ul style="list-style-type: none"> ・保育業務支援システムを活用し、保護者の評価を把握し、課題に取り組んでおられる。今後も継続していただきたい。

園名（ 黒田庄こども園 ）

【園の特色や今年度、園として頑張りたいところ】

－本年度の取組 重点－

○特支の推進・研修

- ・支援の必要な子が増えている。支援の必要な子への配慮が、全ての子にとってより良い支援になる。
- ・園と保護者との連携。園と関係機関の連携をとる。
- ・5歳児健診（今年度から）については、子どもの学びにくさを早期に発見する機会であり、子ども自身のより良い生き方を探る大切な機会と捉えている。

○地域力の活用と連携

- ・町づくり協議会、子育てサークルと連携し、様々な人材を活用している。グローバルであるが、ローカルである地域の良さを感じてほしい。

○園小接続の取組

- ・こども園の職員、学校職員で互いに理解し合っていきたい。

○デジタル機器の活用

- ・「保育DX」は、市内どこも進められている。電子黒板の導入を予定している。いろいろな使い方で、更に深い学びにつながるよう、十分な利活用をしていきたい。
- ・個々の園児理解や保護者に真摯に向き合うこと、職員の協力体制をしっかりとることを意識したい。また、子どもの伸びている姿が話題にあがる現場でありたいと思っている。

	担当委員より
<p>教育 ・ 保育内容</p>	<p>園全体の雰囲気作りを担う保育者一人一人が、穏やかに子どもと接しており、子どもたちの気持ちに寄り添った遊びの提供や子どもの育ちに関連して保護者への対応も丁寧に行われていることがうかがえる。</p> <p>0～2歳児では、スキンシップを大切にしながら、前期から後期にかけて子どもたちの成長に応じて玩具にも変化が見られたことから、子どもの発達をしっかりと見据えた保育が実施されていることが分かる。一人一人を「大切な子ども」として預かっているという思いをもち、保護者との対話も大切にしている様子が伝わってくる。</p> <p>どのクラスも、保育者によって保育のねらいが明確に立てられ、保育が実践されている。一つの遊びだけでねらいを達成させるのではなく、様々な遊びを提供し、子どもが主体的に好きな遊びを選べる環境を整えるためには、保育者の遊びのレパートリーを増やしていくことがさらに期待される。</p> <p>3～5歳児では、保育者自身も子どもとともに遊びを楽</p>

	<p>しむことを心がけており、工程の多い制作活動にも、子どもたちは意欲的に取り組んでいる様子が見られた。指先を多く使う制作活動でごっこ遊びに必要なものを作り、また日々の生活の中で経験したことを遊びの中で再現できるような、楽しい活動が展開されていたため、子どもが一人一人役割を自ら考え、その中で子どもたちが役割に対する動きを「考え、工夫する」姿が育まれていることが分かる。子ども自身が「遊びを作り上げる」という保育が展開されている。それに寄り添う保育者も、教材研究のために日々研鑽を重ねていることがよく分かる。</p>
教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに基づいて保育をされている。 ・ICTの活用による事務的な軽減は、働きやすさにつながり先生方が仕事を続けられる土台となる。また、質の向上に時間が使えるようになるため、継続していただきたい。
安全管理 ・ 防災教育	<ul style="list-style-type: none"> ・安全管理のマニュアルがあり、それに基づいてされている。園児が安全に過ごす土台となっている。 ・年間計画に沿って毎月の訓練を実施することで、日々安全意識をもっておられる。
家庭 ・ 地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域との連携に保育総合支援ツールを導入されている。連絡・連携を確実にかつ適切に行うことに加え、保護者が園に対して発信しやすいよう、保育総合支援ツールを活用できるとよい。
職員の 資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・独自の評価方法を園で取り入れられている。自己を振り返る機会を作られていることは、資質向上に向けてとても大きな取組であり、特筆できることである。
食育 ・ アレルギー対応	<ul style="list-style-type: none"> ・食の安全を大切にされている。また、家庭でも取り組みやすいように、食に関するアンケートを実施するなど、子どもを取り巻く大人が子どもの食に関心を持てるような取り組みが行われている。
関係者評価の 取組	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートと並行して職員アンケートをとり、その内容をリンクしようとしている。双方向の取り組みではなく、課題が見える化できるため、よい取組であると言える。

令和7年度西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会
園小接続報告書

内容

今回の訪問を通して、園の先生方が日々の保育を大切に積み重ね、子どもたちの成長を丁寧に支えておられることを強く感じた。各園の取組として、手作り玩具や自然物を取り入れた遊び、家庭から持参した絵本を劇遊びに生かす活動など、子どもの興味や発想を尊重した実践が、豊かに展開されていた。また、振り返りや発表の場を設け、表現力を育む取組も印象的である。

環境構成の面では、安全性に十分配慮しつつ、季節を感じ取れる素材や、主体的な活動を促す玩具・教材が効果的に配置されていた。特に5歳児のダイナミックな壁面制作や、子どもたち自身で整える環境づくりは、小学校の学びへつながる主体的な姿を育てていた。

保育者の関わりについては、穏やかで肯定的な声かけが一貫しており「楽器さん喜んでいるね」など、心を動かす言葉を用いた関わりが子どもの意欲につながっていた。先生的一声で子どもがすっと動ける統率力も見事であり細やかな観察に基づく配慮が行われているため、“気になる子”も集団の中で自然に成長している姿が見られた。

園小接続については、図工や生活科の学びを意識した活動や、「言葉見付け」による語彙の育ちなど、就学後を見据えた働きかけがすでに多く実践されていた。また、LDXの公開授業への参加など、教職員同士の交流を通して互いの教育内容を理解し合う機会が深まったことは大きな成果である。市内小学校との交流の在り方に差が見られるため、4月当初から計画的に交流を進め、一定の共通理解をもつ仕組みづくりを行っていくことが今後の課題である。

令和7年度西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会
特別支援報告書

内容

各園の先生方のとても丁寧な取組を見せていただき、感動しました。

就学前の子どもたちは、ことばを聞いて理解したり、ことばで伝えたりすることがまだまだ難しい発達段階です。ただでさえことばでのやりとりが難しい子どもたちのために、ことばだけに頼らない保育・教育を実践されてきたからこそ、特別支援教育との親和性は高いと感じています。つまり、障害や特性のある子どもたちにとって過ごしやすい素地があるということです。以下がその例です。

- ・マークやシールで、子どもの持ち物や位置を示すこと
- ・写真やイラストで見せること
- ・柵やタオル掛けなどを使い、場を区切ったり、動線を示したりすること
- ・音楽やピアノを手掛かりに活動に気付かせること
- ・繰り返して習慣化することで、子どもの理解が進むこと
- ・遊びと生活を中心に発達を促すこと など

このような環境調整を基盤とした上で、個に応じて支援をするのが望ましい姿です。集団から離して個別で対応することが特別支援ではありません。また障害は、その子どもの内側にあるものではなく、環境や社会の狭さとの間に生じるものです。ゆえに、子どもの集団において、障害や特性のある子どもたちが「どうすれば『みんなと』できるのか」ではなく、「どうすれば『みんなと』できるのか」、そんな方法を今後も一緒に考えていけたらと思います。